

第6回富山県地域交通活性化推進会議

日時：令和3年1月18日（月）13:30～15:00

場所：富山県民会館 304号

1 挨拶

（山崎副知事） 本日、「富山県地域交通活性化推進会議」を開催しましたところ、委員の皆さまには大変お忙しい中ご出席いただき、誠にありがとうございます。また、石井晴夫座長には、遠路ご参加を賜り、重ねて感謝申し上げます。

先般、記録的な大雪により県内に甚大な被害が生じました。ゲリラ豪雪ということで、富山市内で多かったのかなという気がしています。富山市南部、岐阜県寄りの猪谷よりも1.3倍、1.5倍ぐらいあるというような積雪の状況でございます。こうした中で、道路などが大変な状況になり、また公共交通機関も運休などとなったわけでございます。今日もおいでになっております交通事業者の皆さま方には、除雪作業など復旧に大変ご尽力を頂きました。昨日、一昨日と行われました大学入学共通テストも、交通による支障がなく実施できたと伺っております。本当に皆さまのご尽力に感謝申し上げます。

さて、この会議は、県の地域交通ビジョンの実施状況のフォローアップということで、幅広く情報交換などを行うことを目的に毎年開催させていただいていますが、やはり今の話題は、コロナ禍の中での交通ということになるかと思います。北陸新幹線が開業してから、それまでずっと右肩下がりでした利用者数が減っていました鉄道、バスなどが、少し利用者数も増えるといった状況にありましたが、今年度になってから、新型コロナウイルス感染症の影響で利用が激減し、大変深刻な状況となっております。

先ほど、富山地方鉄道、万葉線、加越能バスの皆さん方3社、それから県のタクシー協会から、県に対して支援を求める緊急要望も頂いたところでございます。これからその要望の内容についてしっかり検討させていただき、今後、補正、あるいは来期の当初予算といった編成作業に入りますけれども、この中で県としても対応をぜひやっていきたいと思っております。

今日はそうしたコロナ関係の議論が中心のなるのではないかと考えておりますが、地域ビジョンの進捗状況等も併せて意見交換をしていただければと思っております。ぜひ委員の皆さま方の忌憚のないご意見を頂戴したいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

<交代委員の紹介省略>

2 議事

（石井座長） 皆さん、こんにちは。ご紹介いただきました東洋大学の石井晴夫と申します。また座長を仰せ付かっておりますので、高木会長さんをはじめ委員の皆さまの格別のご支援、ご協力を賜りながら、富山県地域交通活性化推進会議の議論をさらに高め、深め、そして県民の皆さんに喜んでいただける安心・安全な公共交通機関をぜひとも推進してい

きたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

また、先ほど副知事さんからもお話がございましたように、コロナ禍で皆さま方も大変な状況に直面していると思っております。現在、政府の方では、令和2年の補正予算の15兆円がもう先般閣議決定しておりますし、また、コロナ対応として100兆円を超えるような予算措置、それから令和3年度における特別な支援の審議を含めて、本日から通常国会が開始されています。現在直面している富山県さんをはじめ、各都道府県の皆さんを、国の方では、全力投球でご支援するという事を先般の記者会見の中でもお話しされています。

その中でわれわれも、公共交通の存続、維持、発展を掲げて、どうしたらコロナ禍で公共交通をさらに存続し、維持、発展させていけるのかということ、さまざまな観点から検討し、それを具体的に推進しましょうということで議論を進めております。そこでは当然、観光産業の皆さん、そして宿泊、食品、さまざまな関連している方々、事業者の皆さん、そしてそこで働く方々、全てにわたって影響を及ぼしています。そういう中で、世界的なコロナという状況をさらに踏まえながら、どうしたらいいのかということで、これからわれわれも国と一緒に、富山県サイドから見た在り方というものを、ぜひ発信していきたいと強く思っております。

本日の推進会議の皆さまには、また格別なご支援、ご協力を賜りながら、今日用意していただいています二つの重要課題について、さまざまな観点から忌憚のないご意見等を賜りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは議事に入りたいと思います。先ほども申し上げましたように、議事の一つ目は「富山県地域交通ビジョン」の取組みの進捗状況等について、二つ目は新型コロナウイルス感染症による県内公共交通への影響等について。この二つの議事でございます。

- (1) 「富山県地域交通ビジョン」の取組みの進捗状況等について
- (2) 新型コロナウイルス感染症による県内公共交通への影響等について

<事務局の説明省略>

(石井座長) どうもありがとうございました。資料1、資料2の個別の具体的な施策についてご説明いただきました。本日は、地域交通ビジョンの進捗状況を資料1で説明いただいたのですが、それに加えて、資料2の新型コロナウイルス感染症による県内公共交通への影響等についてということで、支援措置も、いろいろ県の方でも国と一緒に、ご支援を頂いていることのご説明を頂きました。

今直面している課題はコロナ禍ということで、先ほど副知事さんからもお話ありましたように、大変厳しい状況に置かれています交通事業者さんから、現状と課題、要望等、今日も県にいろいろ緊急要望があったということですが、まず交通事業者さんの方からご意見を賜って、そして全体討議の方に進めていきたいと思っております。それでは、最初にJR西日本の森下委員からよろしくお願いいたします。

3 意見交換

(森下委員) JR西日本の森下でございます。先ほどもございましたけれども、先日の雪では、新幹線の一部、それから城端線、氷見線等々、運休させていただきました、大変ご迷惑をお掛けいたしました。また、県をはじめ関係の皆さまに大変ご支援、助けていただきました、本当にありがとうございます。お礼を申し上げます。引き続き、まだ辛抱は続きますので、安全を大前提に、お客さまへは運行情報をしっかりと事前にお知らせする中で運行を続けてまいりたいと思っています。ぜひよろしく願いいたします。

また、今お話がございましたが、コロナ禍ということで非常に厳しい状況が続いております。緊急事態宣言ということで、ご利用の方は、北陸新幹線は上期が前年比21%ということでした。秋はGoTo等のお力添えを頂きましたので少し盛り返したわけですが、再度低迷してきておりました、12月は52%、1月に入りまして雪の関係もあり、また緊急事態宣言の関係もありまして、2割台ということで推移している厳しい状況でございます。

在来線を含めて、大変状況が厳しいということもありまして、2月から新幹線つるぎの一部と特急列車の減便ということで発表させていただきました。こういったことも含めて、固定費がかなり割合の高い業態ですので、あえて経費削減の努力をしながら、何とか運営をしていかなければいけないと思っております。今日ご説明いただいております本ビジョンの政策等をしっかりと勉強する中で、頑張っって利便性を向上させつつ、運営を継続していくことを頑張っってまいりますので、引き続きご支援をよろしく願いいたします。

(石井座長) どうもありがとうございました。続きまして、あいの風とやま鉄道の日吉委員、よろしく願いします。

(日吉委員) あいの風とやま鉄道の日吉です。JRさんもおっしゃった雪の関係ですが、記録的な豪雪ということもありまして、土、日、月と3日間全休するという状況になりました。この間、記録的な雪が降ってきて、そして除雪する、さらにまた降ってくるということの繰り返しが続きましたので、除雪に大変な時間を要してしまったということで、この間、社員一丸となって除雪に取り組んだのですが、どうしてもこのような形で3日間運休ということに至りました。この点につきましては、利用者の皆さまにおわびを申し上げます。

コロナの関係につきましては、この表にあるとおり、鉄軌道のグラフが出ていますが、このデータそのものと言ってよろしいと思います。4月、5月は大幅に利用者が減ったのですが、その後回復してきたということで、11月段階では通勤通学は9割ぐらい、あと定期外については新幹線の乗り継ぎ客が多いのですが、これが7割程度まで回復してきたという状況でした。12月は、まだ数値が確定していませんが、通勤通学はさらに増えているという状況があるのですが、定期外についてはやはり6割程度まで落ちるのではないかと予測しています。

今後もコロナの状況によってしばらくこういう状況が続くのではないかと予想しております。これに対して、私どもとすれば、まず第一に、今度の3月のダイヤ改正において、通勤通学時間帯を中心に車両を増やす対応をしたいということで、なるべく朝の時間や夕・

夜の時間について、2両編成だったものを3両編成に、3両編成だったものを4両編成にという形で変更をかけていって、なるべく密にならないように対応していきたいと考えています。

それと同時に、こちらの方でいろいろなことをやっていると書いてありますが、いわゆる富山―東富山駅間の新駅、あるいは東富山駅の東改札口の新設といった形で、将来を踏まえて、利便性の向上を引き続き進めながら、何とか頑張っていきたいと思っております。こういった施設整備等につきましては、また県、市町村の皆さんのご協力を頂ければと思っております。以上です。

(石井座長) どうもありがとうございました。続きまして、富山地方鉄道の中田委員、お願いします。

(中田委員) 富山地方鉄道の中田です。雪の影響につきましては、当社の鉄軌道、路線バス、全て一時止まるという状況になりました。路線バスは特に回復が遅くて、先週の火曜日には2路線しか走れない状況になっていましたが、ようやく先週の土曜日でほとんどの路線が回復しました。土曜日からは、鉄道も南北直通運転がようやく運行を開始することができました。その前には鉄道は全て、富山、立山全ての運行ができるような状況になると。どちらかというとも山の方が雪が少なかったような状況になっていまして、ようやく先週末から全路線での運行が可能になるようになり、共通テストにつきましても無事に輸送することができたという状況です。これは道路関係者の皆さまに手伝っていただいたおかげということで大変感謝申し上げます。

一方、コロナの状況ですけれども、輸送人員のグラフはこのような状況です。一般乗合の上期の乗車が約7割、軌道は60%台、路線バスについても70%台という状況になっています。これは輸送人員ベースでの話になりますけれども、旅客収入ベースでいきますと、乗っていただいているのは、どちらかというとも地元の通勤通学客の方がメインの状況です。旅客収入ベースでいきますとほぼ半分という状況になっていまして、元々鉄道ですとか乗合バスというのは赤字基調の事業です。それを高速バスであったり貸切バスであったりで内容を前後して何とか数字を整えていたという状況ですけれども、高速バスにつきましては収入ベースでいきますと約15%、貸切バスにつきましては、上期の収入ベースでいきますと前年比で12%しかないという状況になっております。

会社全体でも、基本的には収入は前年の半分しかないという状況でございまして、公共交通事業者とありますけれども、企業という観点からしますと非常に厳しい状況です。本来、収入は10%落ちても大変苦しいところですが、それが半分になってしまった。上期の赤字が大体15億、営業段階で出ております。最終では、はるかにもっと増えるという状況になっております。こういう状況の中で、企業として、公共交通をどうやって維持していくかというのが今後の課題になってくると思います。こういう状況が永遠に続くのであればやめてしまうのですけれども、近い将来、通常に戻るということを考えると、路線の縮小や減便もなかなかしにくい状況です。今、第3波ということで、県外の移動は厳しくなっており、貸切・高速バス事業はなかなか厳しい状況です。

うちは航空事業もやっていますが、外国便が全く飛んでいないという状況になっていま

す。全体的に非常に厳しい状況がいつまで続くのか、私たちも予測がつきませんけれども、1年以内に何とか回復してもらわないと、非常に厳しくなって、事業の維持すら困難になってくるのではないかと危惧しております。以上です。

(石井座長) ありがとうございます。続きまして、万葉線の水上委員、お願いします。

(水上委員) お世話になっております。万葉線につきましても、同じく雪の方から言いますと、13km線路がございますが、13kmのうち8kmの軌道線部分は木曜日から運行し、残り越ノ湯まで5kmの鉄道区間を順次開通させ、土曜日の朝には全線を通常運行することができました。その間、ご利用の方には本当にご迷惑をお掛けしたということで、おわび申し上げたいと思います。

コロナの話ですけれども、先ほどからも言うておられるとおり、このグラフのとおりでございます。とりわけ4月、5月は前年比6割減ということで、日中、空の電車を走らせながら、本当に減便も正直考えました。それくらいにお客さまがお乗りにならない状態が続いております。そういうことで、4月から9月の中間では、前年比で61.5%という数字になっております。

10月、11月につきましては、前年比で8割ほどまで戻ってきておりますが、依然としてあいの風とやま鉄道さんと同じように、日中のご利用、定期外のご利用がなかなか戻っていただけていない。これはやはり生活スタイルが少し変わったのかなど。日中のお買い物であったり、通院であったり、そういった外出が減ってきているのだろうと感じておりました。それでも10月、11月は戻り傾向にありましたが、ここ12月に入ってから、また県内でもコロナの話が出てまいりまして、その関係で12月からまた減少に転じていまして、1月に入ってさらに雪も重なって、先ほどから各社さんおっしゃるとおり大変厳しい状況となっております。

こうした収入減はもとより、弊社の場合、生活路線ということで、旅客人数が大変落ちていることについて、本当に心を痛めております。11月まで、前年比で25万人余りのご利用の方が減ったということ。このことは生活路線をあくまで確保しております弊社としては非常に心を痛めているところでして、今後、この13kmの路線を15分間隔で日中運行いたしますけれども、このことについてももしっかり対応できるように、引き続き行政の皆様のご支援を頂きながら努めてまいりたいと思っております。以上でございます。

(石井座長) ありがとうございます。それでは、続きまして立山黒部貫光の中川委員、お願いします。

(中川(修)委員) アルペンルートの中川です。昨年、わが社は、営業を始めてからそれこそ経験したことのない、2カ月間にわたる営業休止という事態にコロナ感染のために追い込まれました。営業再開後、富山県のご支援もございまして、「黒部ダム行っ得きっぷ」という非常にインパクトのある商品をつくることができまして、個人の地元のお客さまについては少しずつ戻ってまいりました。

しかしながら、最盛期の夏であっても、日本中にまだ抑制ムードがありました。団体が

動き始めましたのが9月、本格的に前年並みのお客さまの動きが感じられましたのは、東京がGoToキャンペーンに参加といいますか、認められてからようやくようになってきたわけですし、10月、11月は例年並みのお客さまの動きを感じられました。しかしながら、シーズンとしてはもう終了間近でしたし、最近の動きを見ますと、令和3年度の営業について非常に不安が感じられます。やはり行動の抑制、自粛ムードが非常に高まりますと、私どものような観光地の交通機関は非常に厳しいものがございます。

これまで同様、感染抑制のために定員を絞り、密にならないような政策は引き続き行っていきますけれども、それに加えて、次のシーズンから予約優先制度を取り入れることにしております。これは、昨年、お客さまが激減したのですけれども、定員をかなり絞ったために、かえって密になるという、われわれも予想しなかった事態が起きました。そういったこともありますので、まず切符売り場にお客さまが集まらないような形で、事前に切符を購入していただいて、到着後、即乗車いただくようなシステムを考えておりまして、時間別の定員数、運行状況、それから、これにはわれわれの立山駅の駐車場の運用も関連してきますので、それも併せて検討中でございます。

新年度は、昨年と違って、お客さまにたくさん来ていただきたいのですけれども、現状は非常に厳しいものが感じられます。国内のお客さまだけで100万人という過去に目指した目標を達成するというのは非常に厳しいものがあるのですけれども、海外のお客さまにつきましては今のところ可能性が全くないと見ておりますので、厳しい中においても営業努力はしていきたいと思っておりますので、引き続きご支援いただければと思っております。以上でございます。

(石井座長) ありがとうございます。続きまして、加越能バスの草木委員、お願いします。

(草木委員) 加越能バスの草木でございます。先々週から降り始めた雪によりまして、わが社も夕方から全部運休するという、かつてないことになりましたけれども、幸いなことに1週間ずれて共通テストの方は無事終わることができて、ほっとしております。

コロナの関係ですが、特に貸切バスは、昨年の4月、5月、6月はほとんど動いておりませんでした。ただ、10月以降になりまして、修学旅行ができなかった分、少し学校さんの方で企画があったりして、50%近くまで戻したのですけれども、もうそのころにはシーズンが終わっていたという状況でございます。

それから、私どもはスポーツクラブもやっておりますけれども、スポーツクラブも一時期悪者になりまして、会員の企業の方からも、「スポーツクラブに行っているなら行くな」ということで、休会したり退会ということで非常に大きなダメージを受けました。

また、路線バスの方ですが、わが社は補助を頂きながら運行している路線バス、補助路線が多いのですけれども、そういった中で何とか地域の公共交通を守るということで、それなりの自負を持ってやってきましたけれども、コロナによって、かくも脆弱な、あつけないものかなという思いをしております。

それから、先ほど少し事務局の方も触れられましたけれども、今年、ノーマイカーデーがなくなりました。私はこれを残念に思っております。新型コロナウイルスということで、

最初の頃は新型なのでしょうけれども、もう既に1年たったわけですから、この間にいろいろなことが分かってきているわけです。ところが、最初の頃の新型の、まだ未知の頃の一種の憲法のようなものがまだあるのです。例えば2m 空けなさいとか。私は誤解されたら困るのですが、一応個人的な思いで言いますけれども、2m というのは、いろいろな本を読んでいますと、マスクをせずにお互いに向かい合って話をしたときに飛沫が飛ばない距離と聞いております。ところが、今はマスクをしようが何をしようが2m みたいなことになっておまして、スーパーでもどこでもそうになっています。

それから、私はあいの風さんに乗ったり、わが社のバスに乗っていますけれども、公共交通ではほとんど皆さんしゃべりません。寝ているか、新聞を読んでいるか、スマホをしています。しゃべらないので飛沫も飛びようがないのです。その上でマスクをしておられますから、安全だと思うのです。車内は換気しています。あいの風さんも富山駅に着いたらずっとドアを開けっぱなしです。そのようなことで、最初の頃の、コロナの様子がよく分からない新型の頃の一つの枠組みが、いまだにずっと金科玉条のごとく独り歩きしていることもあると思いますから、やはり皆さん、私もいろいろな本を読んだりしていますけれども、考え方をそろそろ変えて、感染力が強いとか、重症化するのが高齢の方が多いとか、そういったことは分かっているので、何かもうちょっと、ウィズコロナとひとくくりになっていますけれども、公共交通を活性化する上でも、そういった分からないときの決めというのを、もういっぺん見直すような意欲というか意識は大切ではないかと思います。

そういったことは行政の方を中心に、私たちも啓蒙活動をしていきますけれども、正しい付き合いの仕方をつくり込んでいく時期に来ているのではないかと思います。以上です。

(石井座長) ありがとうございます。それでは、続きましてバス協会の小竹委員、お願いします。

(小竹委員) 富山県バス協会でございます。全国的にバス事業者は全て大変苦慮している状況でございます。富山県におきましても、特に貸切バス事業者が大変苦慮しているように聞いております。一時は9割減、8割減ということで、ようやくこの11月にはおおむね50%減というところまで来ている状況でございます。この間、富山県さん等には大変厚いご支援を頂いたこと、心から感謝申し上げますところでございます。今後も、ぜひ絶大なご支援を賜りたいと思うところでございます。以上です。

(石井座長) ありがとうございます。続きまして、タクシー協会の清澤委員、お願いします。

(清澤委員) タクシー協会でございます。今回の豪雪により、大変大きな影響を受けまして、タクシーは配車依頼があっても、事業者はまず出庫するに当たって除雪からしなければならぬということで、非常に皆さんにご迷惑をお掛けしました。

また、バスや電車が止まるという中で、タクシーに配車の依頼が来るわけですが、同じ道路を使うタクシーに対して、「なぜ来ないのだ」というような、いろいろな形でお叱りを受けたということもありました。

また、大学病院の方まで送るお客さんがいて、4時間かかったと。この4時間かかる間に燃料切れを起こしてしまったということで、タクシーはガスですので、どこでも給油できるというわけにはいきませんので、非常にお客さまに迷惑を掛けたということも多々あったようでございます。

こういった中で、コロナ関係におきましても、減収率、減収につきましてはこの表のとおりでございます。この4月、5月は1日1車当たりの収入が、地域によっても異なりますが、6000～7000円から1万円を超える減収であって、運転手の給与は歩合で支払われていますので、現実的にもものすごく痛い、運転者の生活にも非常に大きく影響を与えるということが続いておりました。若干は回復してきていましたが、この第3波でまた大きな影響を受けることになっております。非常に苦しい状況に置かれてはおりますが、この間におきましては、県さんの支援を頂き、大変ありがたく、一息ついたかなということもありますが、今後どのような状況に至るのか非常に厳しいところであります。

こういった中で、昨年3月以降、2社が撤退するということもありました。今後、1社撤退ということも予想されております。こういったことが長く続くことになれば、さらに撤退する事業者が出てこないかということが非常に心配されます。事業者が撤退することになれば、交通空白地が生まれることも懸念されますので、このあたりが非常に大きな課題になってくると思われます。

こういった状況がありますので、さらなる各自治体さんのご支援を頂ければと思っております。

(石井座長) ありがとうございます。それでは、労働協、石橋委員。

(石橋委員) お疲れさまです。従事者代表ということで、それぞれ労働者の立場で、今回、大雪の影響の際には、先ほど来ありましたように、電車、バスが一時止まるという状況。そして今ほどありましたように、タクシーも安全面を考慮しますと運行ができないという状況に至りました。そういう意味では、利用者の皆さま方には非常にご迷惑をお掛けしたのですけれども、乗務員も家から出てこられないという実態もありまして、そういうことに今回は至りました。

それと新型コロナウイルスのことですけれども、これは鉄道、電車、バス、タクシーもそうですが、不特定多数の利用者の方々がおられて、特にタクシーの場合は個別輸送になりますので、乗務員の感染リスクが高まっているということで、PCR検査に行かれる際に、保健所を通すと公共交通はいったん利用を控えてくださいということがありますが、そうでない方もおられまして、実際にその後、PCRで陽性が確認されると、タクシー乗務員も一時的には休業、休暇ということになります。先ほどもありましたように、特にタクシー乗務員の賃金は歩合制ということもありまして、そういう意味では、本来の生活の流れもそこで一時的に厳しくなるということで、事業者の方々も大変なのですが、そこで働く労働者の方々も、生活の維持が非常に厳しくなっているということが実態としてあります。

そういう意味では、私たちは富山県などにも昨年お願いしてきたのですけれども、事業者の支援ももちろん大事なのですけれども、労働者への直接的な支援も頂かないと、生活の維持、あるいはその事業者に勤めることがままならなくなるという、非常に厳しいとこ

ろまで来ているのが実態で、ぜひそういう捉え方もしていただきながら、何らかの支援策を検討していただけないかというのが、働く側の思いとしてあります。

以上です。どうぞよろしくお願いいたします。

(石井座長) ありがとうございます。交通事業者さん、また、そこで働く従事者の皆さんの厳しさというのは、今、お話を伺って理解したところですけども、今までのお話を聞いて、それでは中川先生、学識の方からご感想、ご意見等を賜ればありがたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(中川(大)委員) それでは私の方からお話しさせていただきます。最初に雪のことですけども、大学の立場としては、共通テストの際には、鉄道事業者さん、バス事業者さんに大変ご尽力いただきまして、無事テストが開催できました。ありがとうございます。また、県の土木サイドの皆さんですとか、あるいは県警の皆さんも含めて、大変ご尽力いただきまして、誠にありがとうございます。まずはお礼させていただきたいと思います。

コロナの話については、データを見ましたところ、どの事業者さんも他県の事業者さんと同じように、鉄道などは8割程度に落ち込んだりしているようですが、これはやむを得ないことなのかなと思います。

それは仕方ない部分もあるのですが、やはりこれからに向けてはいろいろ変えていかないといけないところがありまして、今日、県の方から提案されていますのは、直接的な支援の話について提案されているわけですけども、例えば日本の交通事業者さんは、富山県の交通事業者だけではなくて全国的に見て、やはりデジタル化、デジタルトランスフォーメーションが非常に遅れていまして、私も富山県以外の交通事業者さんと一緒にコロナの後のことについていろいろ議論しているのですが、もっとデジタル化を進めていって効率的にしていくということで、データを収集したり、データを解析したり、それを踏まえた対策を実施するなどということはやっていかないと感じています。

県からの応援の方向としても、今回の危機を乗り切らないといけないのは当然ですけども、当面の施策を金銭的に応援するのもいいのですが、政策として、新しい公共交通事業に向けての取り組み方や事業の変革に対しての新しい政策なども打ち出していただけると、長期的なところにつながっていくのではないかと思います。

それから、ビジョンに関することなのですが、私はこちらに来てから4年間、この会議に出させていただいているのですけれども、毎年同じ報告を頂いていて、数字が少しずつ変わっていくだけで、内容はあまり変わっていないように思えます。この会議は1年に1回開催されていますので、だとしたら、少なくともこの1年間、この数字を上げるためにどういう努力をして、それでできなかったとしたら、なぜできなかったのかという分析はあって当然だと思いますし、次の1年に向けてどういう努力をするかということも書いてあって当たり前ではないかと思いますが、そのようなことが書いていないように思えるのです。

これまで3年前、4年前にも私から言わせていただいたこともありますし、他の委員の皆さまからもいろいろと提案されたことがありまして、その場では「面白いですね。その方向で考えましょう」という結論になっていたかと思いますが、今回の中身を見て

みましても、これから具体的に何をどうするのかよく分からないですし、私が以前提案させていただいたことも、私はそのようにできると思っているのですけれども、まだできていないものもあるようです。会議をやる以上は、フィードバックしながら前に向かって進んでいくようにしないと、5年前につくったビジョンが達成されているかどうかということだけをずっと検証し続けていっても、他県等との比較という意味では、競争力が低下するのではないかと感じます。

一方で、富山県は公共交通では非常に大きなポテンシャルがあると思いますので、日本の地方をリードするようなことができる、それこそわくわくするようなことがたくさんできるのではないかと思いますので、そういったことに向けての議論があってもいいのではないかと思います。

例えば一つ挙げるとすれば、この会議の中では、城端線などをもっと便利にしてほしいという意見を何年も前から聞いていますけれども、今朝、富山新聞を見ますと、城端線については前向きな提案もされていまして、そういったことも可能だと思うのです。富山県なら十分可能だと思いますし、日本の中では率先してやっていけるポテンシャルがあると思いますので、ぜひそういう方向で、ビジョンをもう少し変えて取り組むなり、ツールを考えたりして、前向きな方向に進んでいただけると、よりわくわくして楽しくなるのかなと思います。

(石井座長) どうもありがとうございました。事務局、いかがでございますか。今の中川委員のご意見等を踏まえて、よろしく願いいたします。

(事務局) 今回は進捗状況ということで、具体の取り組みを幾つか、それぞれ取り組まれているものを説明させていただいたのですけれども、今ほど城端線の利便性向上という話もありまして、県の方でもLRT化の調査を進めている段階なので、また次回の会議などでは、この辺の内容もある程度明らかになりましたら、そういうものを盛り込むような形でまた報告させていただきたいと思います。

(石井座長) ありがとうございます。今年度はコロナ禍ということで、大変な、予想しなかったような厳しい状況に直面して、さまざまな対応・対策に追われていたと思います。その中でも、せっかく今、中川委員からも有用なご指摘を頂きましたので、地域交通ビジョンの具体的な検証と同時に、来年度に向けての具体的な推進方策等々も含めて、県の方も大変だと思いますけれども、ぜひご尽力を賜ればと思っております。よろしく願いします。

それでは、長尾先生、よろしく申し上げます。

(長尾委員) 長尾と申します。交通事業者のいろいろなご意見を聞いていて、われわれが思っている以上に厳しい経営実態の中におられるということがよくわかりました。このことは県内の住民を始め多くの方に、もう少しマスコミの皆さんが、各交通事業者さんが具体的にどのような苦勞をしておられるのか、もっといろいろな情報をオープンされてもいいのではないかと考えます。お互いに痛みを分かち合い、今後、どうしていったらよい

か対策を考える場合に、当事者および関係者の情報提供が非常に重要になってくると思います。

私自身は今、この場で生の声をお聞きすることができたのですが、マスコミの皆さまが、交通事業者のかたはコロナ禍のもとでどのように苦しんでおられるとか、県民の皆さまにこのような協力をお願いできないだろうかというように、情報の橋渡しを積極的に行って共有化を推進していくべきではないかと考えます。私自身、大学で経営関係の科目を担当していますが、その立場から考えても事業者の経営の実態は非常に悪い状況にあるので、その実態を多くの人に知って頂いて、その対策や公共交通の利用の在り方等のアイデアが県民の皆さまも含めて提案されてくるべきではないかと思えます。その意味においても、もっと当事者の生の声を共有化できるように、マスコミの皆さまにご尽力をお願いしたいです。

2点目として、コロナ禍において、アフターコロナにおける具体的な経営活性化策を策定して欲しい。コロナが収束するまでにまだ時間を要すると考えられるので、このような時期においてこそ、アフターコロナにおける事業拡大の方向性や戦略を検討しておくべきだと考えます。今日の資料にも紹介されていますように、各交通機関がいろいろな取組みを行い、実践してきています。またそれに伴って、ハードやソフトも充実・強化されてきています。しかし、単独で取組む事業戦略は限界の域に達しているかもしれません。今後は交通事業者と各商店、各施設等の連携によって、例えば、クーポン券、商品割引券、買物券等の協同事業化を企画・実践し、需要拡大を図っていくようなことが考えられないかと思えます。以上です。

(石井座長) ありがとうございます。大変重要なお提案を頂きました。キーワードは次に向けたポストコロナの連携という、大変重要なお提案を頂きましたので、事務局の方もしっかり受け取っていただきたいと思えます。

時間の関係もありますのでちょっと急いで、また、今日はせっかくの機会ですので、委員の皆さまにできるだけご意見を賜りたいと思えます。経営者協会、金岡委員の代理の矢坂さん、お願いします。

(矢坂代理) 今日は会長の金岡が私用で欠席させていただいておりまして、私、矢坂が代理で出ております。

いろいろな目標値が出ている中で、先ほど中川先生もおっしゃったのですが、令和7年度の目標が幾つか挙げられていますけれども、やはりわれわれ経営する立場でいうと、もう少し定量的な目標をしっかりと出さないと、それに対しての行動計画が作れないと思うのです。今ここに挙げられている目標は、「できる限り」とか、極めて曖昧模範な言葉が出ておりまして、やはりもう少し具体的な定量目標を立てて、それに対してのKPIを出してアクションプランを立てていくということが、現実の目標達成に向けての得策ではないかなと思えますので、そういうところを見直すことも必要かなと思えます。

先ほどのお話ですと、随分過去にこの目標が立てられたと聞いていますが、時代とともに背景も変わっていつていきますので、目標の、五つの視点とか、目標指標も1から10もありますけれども、この辺の見直しを考えていくことも必要かなと思えます。以上でございます。

ます。

(石井座長) ありがとうございます。それでは、富山県高等学校 PTA 連合会の三浦委員、お願いします。

(三浦委員) 富山県高等学校 PTA 連合会理事および富山東高等学校 PTA 会長の三浦でございます。まずは、土日に行われました大学入学共通テストにおきまして、数日前まで大変なダイヤの状況でありましたが、当日無事、受験生の運行を担っていただきました交通業者の各社さまにおいては、保護者を代表しまして御礼申し上げます。どうもありがとうございました。満員で走っていく市電を眺めました。夢と希望を持っている子どもたちを無事輸送していただいている運行会社さまに、本当にありがたいと思います。

あともう一つ、富山東高等学校 PTA 会長としましては、あいの風とやま鉄道さんの東富山駅の、東側の改札口の開設というのは、高校開設以来の長年の希望でありまして、やっと3月から供用開始ということで、これも大変感謝申し上げます。東高等学校は今まで西側の改札口を通ると、ほとんどの人が踏切を渡っていくということで、過去には生徒が要因で電車が止まった事案があったという話も聞いております。大型の人身事故がなくここまで来られたのは大変ありがたいことではありますが、東側の改札口が開設されたことに関しましても感謝申し上げます。

あともう1点、利用者としてしましては、全国共通の大手の IC カードを、富山のいわゆる地鉄さんですとかバスなどでも共通に使えることを、利用者の代表として希望を申し上げたいと思います。以上です。

(石井座長) ありがとうございました。続きまして、婦人会の大井委員、お願いします。

(大井委員) 大井です。よろしく申し上げます。まず、皆さんもおっしゃったことですが、けれども、たくさん雪が降ったときに、それこそ民間の業者の方、県庁や市役所やいろいろな方たちが率先して、道路や線路等の除雪をしていただいたということで、本当に感謝を申し上げたいと思います。

先ほど長尾委員さんから、業者だけでなくいろいろな立場の方と連携してと言われましたけれども、私はその中に利用者も含めていただきたいと思います。利用者が、なぜこんなに便利で素晴らしい富山県の公共交通機関があるのに乗らないのか。私は乗らないというよりも、乗れないという感じが強いのではないかと思います。それは例えば、コロナの感染が拡大しているときであれば、コロナウイルスがどこに飛散しているかわからない、自分がかかりたくないという思いがあって、特に私たちの世代などは、乗りたいけれども乗れないというところがあるのではないかと思います。それは一つには、このごろ駅もだんだん無人化になってきているし、バスに乗っても昔のような車掌さんもおられないし、駅の構内を見ていると、機械はたくさんあるけれども、駅員さんの姿はだんだん見えなくなってきているし、そういうことから何か不安感というか、見守ってもらっている感じがなくて、いろいろなものを利用したいのだけれどもできないということになると思います。

次に、乗りたいのに乗れないというのは、例えば自分だったら、乗りたくても、これは

前の会合でも言っているのですけれども、駅までとても遠い、歩いてはとても行けない。そして、公共のバスを利用しようと思っても、1時間か2時間、ときには半日に1本しか運行していないものに乗っていくと、富山まで行くだけで出てくるだけで半日かかるという状態なので、乗りたくても乗れないとなってしまいます。本当は自動車も電車もバスも大好きで、いろいろなものに乗っていきたいのですが、実際は乗れないという人がたくさんおられるのではないかなと思います。ですから、そんな人たちの生活の様式や交通環境などもいろいろ考えていただいて、利用する人の思いと連携しながら改善を加えていただければありがたいと思います。

別のことですが、資料1に学習のことが書いてあります。これも私はお話したことがあるのですけれども、地域交通の乗り方学習ということで、マナーを学習するような感じで書いてあるように受け止れるのですけれども、それも大事なことのだけれども、子どもたちが公共交通機関に乗って、景色を見たり、お話をしたりして、楽しい経験というものをやらせてあげれば、今すぐでなくても、高校に行ったときとか大学生になったとき、大人になったときにそういった乗り物を積極的に利用してくれるのではないかなと思うのです。そういう利用者の心も考えながら、さらに政策を考えていただけたらありがたいと思います。

(石井座長) ありがとうございます。それでは、老人クラブ連合会の島田委員、お願いします。

(島田委員) 老人クラブでございます。私たちは最近、県の方で「米寿のつどい」というのをやってもらったのです。そうしたら、みんな88歳までと思っていたら、みんな88歳を軽くいってしまったのです。ですから第1関門は通過して、では今度はどうするかということで、目標は一応100歳というふうにちょっと上げたのですが、これもいくのではないかなと思っています。とにかくみんな元気なのです。私も84歳ですけれども、本当に何の疲れもないのです。ですから、早く新幹線がつかないかなと。そうすればみんな動きまわります。やはり今みんなが行きたがっているのは京都です。京都にも老人クラブが数十万人おられますので、いろいろとまた交流できるのではないかなと思っておりませんが、とにかくもう人生は100ということでみんな決めましたので、亡くなる人はほとんどおりません。増える一方ですから。そういうことで、県の方にも大変ご尽力いただいておりますので、とにかく高齢者は大したこともできませんけれども、皆さまには迷惑を掛けなくて、コロナなんかには負けるかと意気込んでおりますので、今後ともよろしくご指導とご支援を賜りたいと思っております。よろしく願いいたします。

(石井座長) ありがとうございます。私たちもすごく勇気づけられますので、ぜひ頑張って、人生100年時代と安倍前総理も言われておりましたけれども、そういう中で、コロナに負けないという大変心強いお言葉を頂きました。

それでは、白井委員、お願いします。

(白井委員) 元ANA富山空港所長の白井でございます。今は利用者という立場で、また

移住者ということなので、そういう立場から少し意見を述べさせていただきます。先ほど長尾先生がおっしゃったように、本当にこれから交通は移動の手段だけではなくて、どういうふうに連携して、どういうふうに活気を出していくのか。特に私は移住者として、県の皆さんが、ほとんど1回は立山に行ったけれども、もう行っていないとか、子どもの頃にどこかに行ったけれども行っていない、でも行きたいのだという話をされることがよくあります。私たちは逆に県外から来る人たちを案内するものですから、いろいろな所に何回も行くと、随分変わったなとか、良くなったなということも確かに感じています。

今回、駅の南北がコロナ禍において通じたというのは素晴らしいことだと思いますし、どこの地方から見ても、非常に発達しているのは間違いないと思います。ただし、全体の連携があまりないのかなというのの一つ思いますし、今回のBBも、うちの母は88歳になりますが、「BBの運行にも乗せていただいて」とか、お子さんも喜んでおられるのですけれども、これは何のたため、この先どうなるのだろうということも言うておりました。いろいろな所でこれが走ったりすると、もっともっと活気が出るのではないかと思いますので、運行される立場の方々は皆さん非常に大変だと思いますけれども、ぜひそのあたりをさらに連携させるということ。

あとはPRですね。ここに載っているようなことはほとんど、あまり知られていないと思います。ケーブルテレビがどうなのかというのは思いますが、ケーブルテレビで同じ内容のことを何度も何度も放送しているようなことがあれば、そこをちょっと工夫して、こういうPRとか、先ほどのご苦労とか、運行される方の皆さんのPRへの思いとか、こんなふうに感染に注意しているのだ、安心して乗ってくれというようなお話も含め、こんな時期ですからどんどんPRしていただきたいのと、2月以降、またGoToもいろいろな形で再開すると思いますので、そのときに県民へ向けて何かいろいろ考えていただくことも必要かなと思います。

それから最後にANAとして。今、現役の方々ともよくお話をしたり、どうなのだという事も聞いておりますけれども、明日からまた1便という寂しい状況になってはいますが、私は阪神大震災の頃、大阪の伊丹空港におりまして、飛行機はせっかく運航ができていたので、絶対になくては駄目だと実感しています。有事があるとお互いに協力し合って、そこがあれば、今飛んでいない路線に公示運賃を出してオペレーションすることができますので、そういうことで、私ができることもまだまだやっていきたいと思います。それには交通網も連携して、空港までのアクセスも含めて、また元の活気が出るようお願いしたいと思います。

併せて両方の立場で意見を述べさせていただきました。

(石井座長) ありがとうございます。飛行機も重要な公共交通と全く一緒ですので、ぜひ連携を深めていただければと思います。

それでは、大学生を代表して千葉委員、お願いします。

(千葉委員) 大学生代表の千葉です。コロナ禍において利用者が減る中で、交通を維持していただいた事業者の皆さまにはお世話になりました。自分は免許を持っていないので、公共交通を利用する機会がメインだったので、とても助かりました。

先ほど三浦委員からもあったとおり、利用者としては全国共通の IC カードがあるという話がありましたけれども、何かそういう取り組みもなされていると聞いたことがあるのですけれども、早く実現するといいなと思っております。

また、バスロケーションシステムが、自分はバスを利用する機会がとて多いのですが、もしかしたら仕様とかなのかもしれないですが、表示されていないバスがあったりすることがあるので、そのあたりがより使いやすいサービスに、今でもとても使いやすいと思うのですけれども、より改善の余地はあるかなと思います。

また、白井委員からもあったとおり、バスロケーションシステムを、バスを使っている友人とかでも知らない人がほぼほぼなので、PR をもっとしていくと、バスを使いやすくなる環境ができるのかなと思います。以上です。

(石井座長) ありがとうございます。それでは続きまして、富山市の中村部長さん、代理でよろしく申し上げます。

(中村代理) 富山市活力都市創造部長の中村でございます。富山市の取り組みといたしまして、資料の中でご説明いただきましたけれども、昨年3月、路面電車が南北接続いたしました。この直後に富山県内でもコロナ感染者が出たことから、ちょっと出鼻をくじかれたようなことではございますが、引き続き路面電車の利用促進ということで、新しい停留所の整備も進めております。これも今年度末、3月ごろには開業する予定となっております。

同じ駅の北側ですけれども、グリーンスローモビリティ、愛称名 BB というものを走らせておりまして、これは将来的には公共交通の空白地帯で活用できないかと考えておりますけれども、グリーンスローモビリティ自体、まだまだ知名度があまり高くないことから、まずは人目に付きやすい富山駅の北側で走らせて、これは無料で乗っていただけるのですけれども、そういったことで、こういったモビリティがあるということを PR していければと思っております。

コロナ禍における公共交通事業者の皆さまへの支援ですが、これは富山県と連携しながら、富山市においても路線バスや鉄道、タクシーなどについて支援させていただいているところでございます。市民の大切な足としまして、地域の NPO などが運行しておりますコミュニティバスもございますけれども、できればそちらの方への支援もご検討いただければ、市も連携して支援していきたいと考えております。

また、先ほど加越能バスの草木委員さんから、公共交通というのは安全に使っているのだということもございましたが、富山市においても、公共交通を使う際にはマスクをして、大声で話さなければ、ちゃんと安全に使えるのだということを PR するポスターやステッカーを作りまして、富山市内を走る公共交通事業者の方々の車両や駅などに掲示していただくようお願いしているところでございます。今後もやはりそういった啓発活動は必要だろうと思っておりますので、地道な活動ですが、しっかりと PR していきたいと考えております。以上でございます。

(石井座長) どうもありがとうございます。続きまして高岡市、代理の今方課長さん、

よろしく申し上げます。

(今方代理) 高岡市でございます。本日は代理の出席で申し訳ございません。

高岡市におきましては、現在、高岡市総合交通戦略という交通系の計画を策定しております。こちらが平成 26 年度ということで、5、6 年前に作成したもので、新幹線開業前の計画ということで、現在は状況が大きく変わっているというところがございまして、現在、交通事業者さん、行政、また地元の皆さまと一緒に、共通の目標を掲げながら、今後の目標について、鋭意、検討・策定の作業に移っているところでございます。

計画がまだ途中ということもございまして、まず提案の中では、現在のコロナの状況、コロナ対策も新たに盛り込んできたというところもございまして、今回の策定に当たりまして、地元の方にアンケート調査をいたしました。その中で、先ほど老人クラブの島田さんからもお話があったように、元気な方がおられまして、自分で車を現在動かせると。いずれは公共交通を使いたいけれども、今はまだまだ不要だとお考えの方が多ということもございまして、極論から言えば使いたいだけでもという方もおられるのですが、多くの方から、まだまだ車を動かせるというご意見もございまして、そういった方々の意見も踏まえながら今後の実情に応じた形で計画を策定していきたいと思っております。また皆さまのご協力をお願いしたいと思います。以上でございます。

(石井座長) ありがとうございます。続きまして立山副町長の酒井委員、お願いします。

(酒井委員) ありがとうございます。やはり地域交通というのは市町村のまちづくりの非常に重要な位置付けにあると思っております。先ほどから話がありましたように、これから少子高齢化ということで、事業者さんも今までと違った形で、より効率的な運行が求められるのかなど。中川先生の話にもありましたけれども、デジタル化ということで、いろいろな情報が交通系も出てきていると思っております。IC カードなども、利用者にとっては便利な手段ですが、事業者さんにとっては非常に重要な情報が蓄積されているということなので、経営に使われる手段もありますけれども、そういうもので市町村のまちづくりに生かせる部分があるかどうか。あれば共有させていただければありがたいと思っておりますし、先ほどの、今スタートしましたバスのロケーションシステムも、運行されてきて結構データが集まってきているのではないかと思いますので、そういうデータも市町村のまちづくりに利用できる場所があれば、ぜひ共有化させていただければありがたいと思っております。以上です。

(石井) ありがとうございます。それでは時間の関係もございまして、ここで高木副座長から、全体を通じてのご意見、ご感想を賜りたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(高木副座長) まずもって、雪の中をお集まりいただきましてありがとうございます。問題は全部一緒に考えるとこんがらがらるわけですが、まず、この会議のそもそも

の趣旨は、少子高齢化で人口減少が5年、10年、15年とたっていくと大変なことになる。そういう中で、いろいろ先を見越して、人口減少対策、つまり活性化が必要である。れども、そういうことで始まった議論ではなかったかと思っております。従いまして、まずこれに対する長期的な、将来は路線の集約も視野に入れて、そしてまだ余熱があるうちに、人口がたくさんあるうちに、それから島田委員さんがおっしゃられたように、元気な高齢者（1日8000歩を目標で歩く）がいるうちに、少し歩いていただいて、頑張っていくということです。この点について一つだけ申し上げますと、十数年前ですけれども、お隣の石川県に行って私はびっくりしました。キャッチフレーズが「県庁まで2時間」。富山は大体1時間で来られますので、車を使えばもっと早い。全ての市町村に鉄道が走っている。こういうインフラがある中で、やはりこれを活性化というか、もっと生かして、将来を見越して手を打とうということだろうと思います。

2点目は、やはりコロナでございます。コロナは中期的というか、数年はかかると思いますがけれども、既に各事業者の人が大変苦勞しておられます。私は幾つかの事業者の方に、どかんと100億、200億、公的資金を入れて維持した方がいいと。そして、これを乗り切る。入れた経験者から言うと、大変厳しいものがありますけれども、その覚悟と決意でやっていたきたいと思います。

そして、いろいろなご意見があったように、きちんと除菌しているという安心・安全のPRがまだ少ないかなと思っております。ちなみに私ども商工会議所では、富山県で第1号が出た去年の3月30日には既に、この部屋ぐらには除菌できるコロナウイルス除菌装置を入れました。また、アクリル板のパネルも付けておりますし、エレベーターも1日4回除菌しております。何時に除菌したかを全部、清掃会社にかかせているのです。体温検知器、それからアルコール噴霧器。そうしたことを徹底的にやりながら、会員の相談数が倍になったのです。まだ10カ月で3000社。融資も1000社で4倍です。こういう対策を各事業者ごとにしっかりやっていくことが大事だと。大井さんがおっしゃっていましたように、やはり安心・安全のPRをもっともっとされたらいいと思います。

地鉄さんとか、いろいろなバスもそういう除菌機を入れているのです。新聞に出ていましたよね。入れていることを言っていないから、危ないのではないかということになるので、やはり安心・安全をPRしていく必要があるだろうと思っております。

これは県の方への要望ですが、やはり観光に対する対応と生活・路線バス等の対応は、しっかり分けて議論していった方がいい。そういう面では、資料で既に、これは資料の何ページでしょうか、地域交通ビジョンの進捗状況の具体例の中には、氷見市さんは観光なのです、こういう動きを進めたらいいのではないかと。それから富山市でも郡部の方は、朝日町さんや上市町さんがやっておられることを、やはり今から、こういう施策にのっとったところには少し多めにご支援するということを徹底してやっていくと、このコロナウイルスが過ぎたときには、かなりいいものができるのではないかと思います。

最後に、中川先生がおっしゃられた事業者の変革支援、これは今申し上げた中にも入っているのですが、前向きな方向性をしっかり見据える中で、夢と希望、MaaSなどもしっかりうたって行って、ただただ耐え忍ぶのではないよと。新しい知事もわくわくと言っていますので、そういう富山県ビジョンをつくる中で、今は苦しいけれども、みんなこの方向で頑張ろうではないかということではいけないのではないかと思います。以上です。

(石井座長) 本日は大変重要な、そしてこれからの方向性も示していただきます全体的なまとめもしていただきまして、本当にありがとうございました。時間の関係もございませんので、まだまだ委員の皆さまからたくさん貴重なご意見、ご発言を賜りたいところですが、大変恐縮でございますが、意見等がございましたら事務局の方にいつでもご連絡いただいて、ご意見を賜れば大変ありがたいと思います。さらに今日頂きました意見は、私と事務局の方でまとめさせていただきたいと思います。

地域交通の利便性向上等の取り組みについては、各委員の皆さまから大変貴重なご発言がございましたが、今後とも引き続き関係者が、特に強固な連携を図り、進めていただきたいと思います。

また、新型コロナウイルスの感染症拡大、防止の対策等々の貴重なご意見も賜りました。地域交通を持続可能なものとしていくためにも、県と市町村がさまざまな連携を図り、安心・安全な公共交通機関をこれからも交通事業者さんにはお願いし、そして、それを県民一丸となって支援して行きたいと思っております。利用者の皆さんにも、さらなるご協力をお願いしたいと思っております。

それでは、最後に山崎副知事さんからまたご発言いただければと思います。よろしくお願ひします。

(山崎副知事) 本日は大変貴重なご意見をたくさん頂戴いたしまして、ありがとうございます。1年に1回の会議でございます。次回については、さらに活発な意見を頂戴できますように、この会議がさらに活性化しますように、資料等についてもしっかりと調整してまいりたいと思っております。

1点だけ。今はウィズコロナのときでございます。企業としても、もう大変だというご意見もございました。何とかこれにしっかりご支援、お支えできるように、最終的には県民の足を守るということについて、市町村とも連携してしっかりご支援していきたいと思っております。

それから、ポストコロナ、アフターコロナに向けては、変えてはいけない部分と、変わらねばならない部分があるのだらうと思っておりますけれども、変えてはいけない部分を守るためにも、変わっていかねばならない部分をしっかり対応していくことが大事なのだらうと、今日のいろいろなご意見をお聞きしながら感じた次第でございます。

今日は大変お忙しいところ、皆さま、ありがとうございました。

4 閉会

(石井座長) ありがとうございます。県行政、また市町村の行政の皆さま、また交通事業者の皆さまにおかれましては、本日頂きましたそれぞれの委員のご意見等も踏まえまして、富山県地域交通ビジョンをさらに実りあるものとしていただきますように、そして県民の皆さまが、利便性が高く、持続可能な地域公共交通の実現に向けて、それぞれのお立場で今後ともご尽力いただきたいと心からお願い申し上げる次第でございます。

それでは、委員の皆さまのご協力により、本日の議事が予定どおり終了したことに感謝

しまして、進行を事務局にお返ししたいと思います。よろしく申し上げます。

(事務局) 石井座長、どうもありがとうございました。また、委員の皆さまにおかれましても、大変熱心にご議論いただきまして誠にありがとうございます。次回の会議につきましては、新年度以降に開催させていただきたいと考えております。改めてご案内させていただきます。

それでは、これもちまして、第6回富山県地域交通活性化推進会議を終了させていただきます。どうもありがとうございました。